

沖縄発のオーディオメーカー、満を持しての活発活動宣言！

# 知名御多出横 (知名オーディオ)

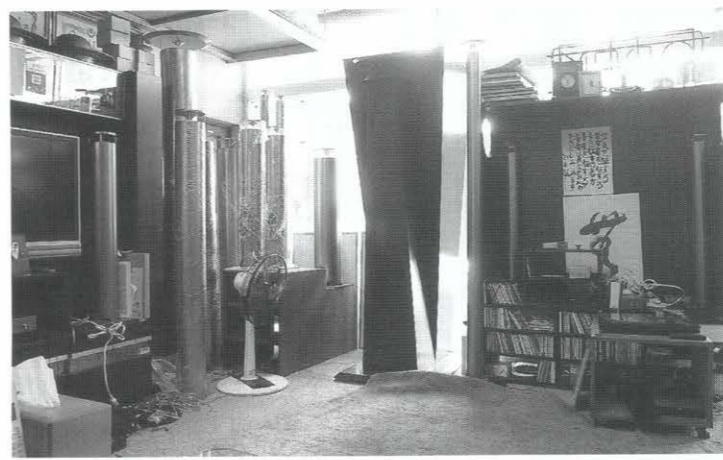
● 沖縄市中央



沖縄県沖縄市中央3-13-11  
TEL●098-938-3994  
営業時間●10:00~18:00  
定休日●日曜日、正月・旧盆  
URL●http://www.audio.co.jp

昨年東京で開催されたアナログオーディオフェアで、知名御多出横(知名オーディオ)に初めて接した方も多かったかもしれない。中心に据えられていたのはターンテーブルをエアで浮上させ、機械抵抗ゼロを謳う糸ドライブ式のレコードプレーヤー。その斬新さがオーディオファンの耳目を引きつけていた。

とはいえメーカーとしての創業は1975年。すでに40年を超えるキャリアを誇り、知名御多出横はまさに知る人



昨年7月にショールームと工場と研究所を沖縄市に集約。早いうちにこのスペースを、これまでの研究成果、過程も把握できるような“ミュージアム”として整備していくという。出張やイベント出展で不在となる可能性もあるため、来店を希望の場合は事前に電話での予約がおすすめ。「営業時間外や日曜日の訪問でも、前日までにご連絡頂けましたらできるだけ対応いたします」とのことだ



「左右が自然に溶け合うバランスのよいスピーカー」づくりへの第一歩がこちら。正面と左右の3方向に3分の1ずつ音を拡散させるイメージでディフューザーを取り付けた、PA用のスピーカー



同社が展開するパイプ型スピーカーは、8cm径フルレンジユニット採用の3モデルが基本ラインアップ。高さ1mタイプ(再生周波数帯域35Hz~30kHz)、同1.5m(同28Hz~30kHz)、同2m(同20Hz~30kHz)があり、すべて10W+10Wアンプとセットで販売されている。価格は順に¥250,000、¥350,000、¥450,000。他に特注品として12cm径フルレンジや20cm径フルレンジ採用モデルもあり

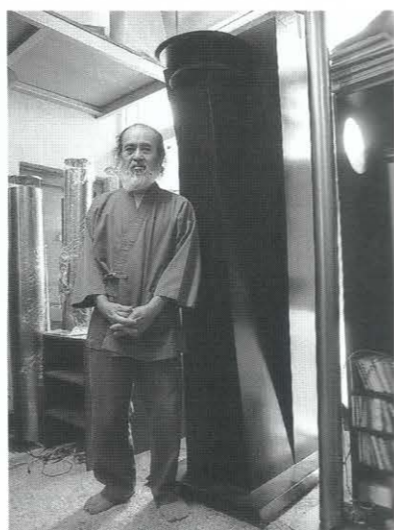
ぞ知る存在なのである。そして沖縄から東京のフェアへの出展は、同社の新たな気運の胎動を示していた。「昨年夏に移転を行ない、ショールームと工場と研究所をここ沖縄市中央の一カ所に集めました。これまでは口コミと紹介だけでやってきたようなものでしたが、会社として外へと出てい



「これはヒット商品でした」と話すのが、スピーカーと一体化したボックスに小型アンプとCDウォークマンを収め取っ手をつけた、持ち運び可能な一体型機。スピーカーユニットに対してはラッパ形状のディフューザーが取り付けられている

「創業前は修理専門でやっていました。そのうちハンダを使わない、電気溶接のアンプをつくり始めたんですね。ハンダという異種金属がつきまじると混ざると歪み、雑味が生じる。それを一切排除しようと考えました」80年に発表したアンプは話題を呼び、今でもそれを憶えていて訪ねてくるお客もいるという。続いて着手したのが、スピーカーの開発。

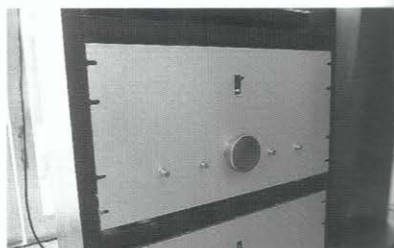
「デイヴ・ブルーベックの『トルコ風ブルーロンド』を聴いていて違和感を覚えました。左側でシンバルが鳴るんですが、これがさびしいというか、左側のみからしか聞こえない。もつと左右が自然に溶け合う、バランスのよいスピーカーをつくらなくては」と、試行錯誤を繰り返して行きつい



「ホーン型低音追求モデル」として製作されたバックロードホーン式スピーカー。折り返して4m分内包されている音道に加え、壁と天井も利用して10m分の効果を引き出すことを前提としている。スピーカーユニットは和紙と沖縄産月桃紙を採用するトリプルコーン型20cm径フルレンジ。ヒーター技術も投入されている



ガラス製ターンテーブルをエアで浮上させて機械抵抗をゼロとした、糸ドライブ式のレコードプレーヤー。再整備の後今年中にまたリリース予定だという



こちらも近々リリースとなるかもしれない「500Wアンプ」



知名御多出横の製品はすべて社員(家族)による手づくり。溶接作業(下)にも果敢に挑んでいく!スピーカー+アンプ1セットの製作にかかる時間は約2~3週間程度とのこと

たのが、フルレンジユニットとディフューザーを組み合わせて全指向的に音を拡散しつつ、低域も幅広く確保するパイプ型スピーカーだ。ユニットのコーン紙が湿気類に負けずハイクオリティをキープできるよう、電源供給型の「ヒーター」が搭載されているという独自構造で、10W+10Wのアンプとの

セット使用を基本に現在同社の主力製品として展開されている。最新の製品動向としては、レコードプレーヤーに関していったん機械的な部分での再検討を行なっているとのこと。次に今後の研究テーマについて尋ねると、「低音に注目したい」という興味深い発言が。

## 「知名御多出横で鳴らすなら、音のソースは何だつて関係ない」

知名御多出横の知名宏師代表のことは約50年前から知っているといる与那覇さん。「知名さんの弟がゴザでロック・パーを経営していたんだけど、そこにすごいスピーカーがあるって聞いて、行ってみたんですよ。そのスピーカーはコンクリートのエンクロ

リ体で聴くような音がしてた(笑)やがてショールームに遊びに行くようになり、経営するパー・フィレンツェにアンプとスピーカーを導入した。8年ほど前からYouTubeをつなぎ、映像を画面に出しながら音楽を流していたところ、こんな反応が起きるようになった。



与那覇辰也さん (Bar Firenzeオーナー)

「オーディオに巨大ウーファーをはめ込んだようなもので、耳でというよ

「コンサート動画を観てたお客さんから、演奏が終わったとたん拍手が起る。自分がコンサート会場にいるみたいに錯覚するんだらうな。これは知名御多出横の音な

らではだと思つて。YouTubeのbの音声をこんな音でなんかふつう聴けないよ。つないでるCDプレーヤーも1万円程度のものでだけと関係ない。音のソースは何だつて関係なく、いい音で鳴らしてくれるんですよ」YouTubeで音楽を楽しむ時間が増えて、与那覇さんの好きな音楽ジャンルの幅も広がったという。

「知名さんが以前「アンプは演奏者で、スピーカーは楽器」と言っていたけど、その通りだな、そうしていい音を出してくれてるんだなと実感してます」



使用されている知名御多出横製品は、スピーカーがパイプ型(φ20cm×2Hm)と全指向性パステル型ボックスェルフ、アンプが250W+250Wと10W+10Wの2台を揃えている



Bar Firenzeは牧志駅から国際通りを松尾方面に向かい、途中でクロスするオリオン通りを右へ曲がって数十メートル。赤いネオンが目印だ 沖縄県那覇市牧志2-5-3 19:00~3:00(年中無休)

余念なし。2019年はぜひ、知名御多出横の動向に注目されたい。